2024年度
一般入試＜前期＞
2024年1月29日実施分

問題と解答

国語

国　語

Ⅰ　次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

一般に、つじつま合わせという言葉はあまり良い状況で使われないように思われる。たとえば、「つじつま合わせの態度」、「つじつまを合わせるために、適当な理由をⓐこじつける」といった具合である。しかし、「こじつける」には悪い意味が含まれるが、「つじつま合わせ」自体は本来、矛盾を解消するとか、筋道が通るようにするというような意味である。この「つじつま合わせ」が、われわれの脳内で頻繁に生じているにもかかわらず、われわれ自身はほとんどそれに気づかず、日常生活を送っているのである。

たとえば、テレビのニュース番組を見ながら、1人のアナウンサーが今日起こった事件について伝えているのを、イヤホンで聞いているとしよう。このとき、画面ではアナウンサーが口を動かしながら喋（しゃべ）っている映像が流れており、イヤホンからアナウンサーの声が聞こえているはずである。すなわち、画面上で動いているアナウンサーの口の位置からは、声、すなわち聴覚的な情報は一切発せられていないのである。［　ⓧ　］。この現象は、視覚情報源と聴覚情報源が空間的には独立しているにもかかわらず、両情報源が空間的に一致していると解釈してしまう現象であり、㋐フクわじゅつ効果と呼ばれる。画面上のアナウンサーが喋っているという解釈は、一種の「つじつま合わせ」による産物なのである。しかし、このような状況で、アナウンサーが喋っているという解釈は決して間違っていない。ただ、画面上からアナウンサーの声が発せられているという解釈は、無意識のうちに現実を誤認していることになる。

別の例も見てみよう。われわれが食べ物や飲み物に感じる味は、味覚によって得られると思われているが、常に嗅覚や視覚な

どの別の感覚も関係しあって、総合的に判断されていることはあまり意識したりしない。【　Ⅰ　】

かき氷のさまざまなシロップは香料の違いだけ、すなわち香りと色の違いだけで作られているのだが、［　ⓨ　］。したがって、たとえば普通のクッキーを食べてもらうときに、人工現実感が体験できるような装置によって、見た目をチョコレート・クッキーに変え、さらにチョコレートの香りを嗅がせると、Ⓐほとんどの人は普通のクッキーをチョコレート味と感じてしまう。このような解釈をしてしまうのも、味覚と嗅覚と視覚の一種の「つじつま合わせ」による産物なのである。【　Ⅱ　】

Ⓑそもそも、なぜわれわれの脳内では「つじつま合わせ」をしてしまう状況になるのだろうか。

それを知るために、まず視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚という五感について説明しよう。視覚には眼（め）、聴覚には耳、触覚には皮膚、嗅覚には鼻、味覚には舌という、個別の感覚器官が存在する。これらの感覚器官で得られた外界の情報が、脳内で処理されることになる。［　ⓘ　］、たとえば眼から入ってきた視覚情報は、㋑モウまくに投影され、視神経から脳内の後頭葉にある視覚野と呼ばれる部位まで階層的に処理されて、外界の理解に至る。視覚以外の感覚器官にも同様に、対応する独立した脳内部位が存在する。【　Ⅲ　】

このようなそれぞれの部位で独立したメカニズムになっているため、お互いに食い違う可能性がある。当然ながら、視覚から得られる結論が、他の感覚から得られる結論と食い違っている場合もある。そうだとすれば、脳内では混乱するはずなのに、脳は複数の感覚器官から得られた情報をうまく統合し、うまくつじつまを合わせている。前述の例では、Ⓒニュースを伝えるアナウンサーの声の音源は、視覚情報だけならば画面上にあると結論を出し、聴覚情報だけならばイヤホンであると結論を出すことになり、［　ⓘⓘ　］な音源位置に対する視覚と聴覚の結論が一致しない。映画の吹き替えにおいて、スクリーンには、男女、さまざまなキャラクターが映っていながら、それぞれの声が聞こえてくるのはあらかじめ設置されたスピーカーなので、［　ⓘⓘⓘ　］な音源位置に対する視覚と聴覚の結論が必ずしも一致しない。また、味覚情報は普通のクッキーで、嗅覚情報はチョコレートの香りで、視覚情報がチョコレート・クッキーというとく㋒シュな状況では、それぞれの感覚器官から得られる結論は一致していない。

【Ⅳ】

しかし、それで脳内が混乱するわけではなく、ⓑ即座に今喋っているのはアナウンサーやエハイゆうであると理解し、今食べているのはチョコレート・クッキーであると判断してしまい、各感覚器官が出している結論に戻ることはない。もっと言えば、テレビや人工現実感の体験装置のような人工的な環境以外の自然環境では、各感覚器官に戻る必要性はほとんど生じないのである。

しかし、認知心理学における実験研究では、感覚間にわざわざオきょくタンな食い違いを人工的に作ったとしても、われわれが自分自身で想像する以上に、つじつま合わせをしてしまうことを明らかにしている。【Ⅴ】

（横澤一彦『つじつまを合わせたがる脳』より）

問1　太線部㋐～㋔のカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

㋐ フクわじゅつ　①

1 複　2 服　3 副　4 腹　5 福

㋑ モウまく　②

1 毛　2 耗　3 盲　4 猛　5 網

㋒ とくシュ　③

1 取　2 朱　3 首　4 趣　5 殊

㋓ ハイゆう　④

1 俳　2 配　3 廃　4 排　5 拝

㋔ きょくタン　⑤

1 炭　2 丹　3 端　4 短　5 誕

問2　二重傍線部ⓐ・ⓑはそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

ⓐ　こじつける　⑥

1　思いつく
2　探し出す
3　すり替える
4　無理に関係づける
5　詳しく話す

ⓑ　即座に　⑦

1　いつでも
2　すぐに
3　少しずつ
4　自然と
5　なんとなく

問3　空欄ⅰ～ⅲに入れるのに最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。ただし、ⅱ・ⅲには同じものが入る。

空欄ⅰ　⑧

1　また
2　ただし
3　すなわち
4　ところが
5　なぜなら

空欄ⅱ・ⅲ　⑨

1　人工的
2　抽象的
3　階層的
4　空間的
5　潜在的

問4　空欄ⓧに入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑩

1　そのため、テレビ番組でアナウンサーが喋っているのを聞いていると、なんとなく違和感を覚えることがある
2　しかしながら、われわれは、テレビ番組でアナウンサーが喋っている内容を正しく理解することができる
3　したがって、テレビ番組でアナウンサーが何を喋っているのかよくわからないといったことがしばしば起こる
4　それにもかかわらず、テレビ番組を見ているときは、誰もがアナウンサーが喋っていると理解しているだろう
5　だから、テレビ番組を見ていると、アナウンサーではなくテレビという機械が喋っているように感じてしまう

問5　空欄ⓨに入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑪

1　ふだんからわれわれはいろいろな味のかき氷を楽しんでおり、それが味覚の錯覚だということになんとなく気づいている

2　それでもやはり砂糖や甘味料を抜いて味をなくしてしまうと、香りや色だけでそれが何味かを特定するのは困難である

3　われわれはイチゴ味やメロン味として感じることが知られていて、味覚の錯覚であることに気づくことはほとんどない

4　そうしたことは誰でも知っていて、われわれはそれが味覚の錯覚であるということをよく理解したうえで受け入れている

5　われわれの味覚の感度は人によって大きく異なっていて、味の違いにすぐに気づく人もいれば全く気づかない人もいる

問6　波線部Ⓐ「ほとんどの人は普通のクッキーをチョコレート味と感じてしまう」とあるが、この実験の結果からどのようなことがわかるか。その内容として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑫

1　人間は食べ物や飲み物の味を複数の感覚器官によって得ているが、外部からの情報が一つでも間違っていると脳は正しい判断をすることができなくなってしまうということ。

2　人間は食べ物や飲み物の味を味覚だけでなく嗅覚や視覚など別の感覚器官も働かせて総合的に判断しているが、その判断は必ずしも正しいものになるとは限らないということ。

3　人間はふつう食べ物や飲み物の味を味覚で判断しているが、この実験では味覚だけでなく視覚や聴覚からの情報も与えられたため、脳が混乱し判断を誤ってしまったということ。

4　人間が食べ物や飲み物の味を判断するときには味覚・嗅覚・視覚という三つの感覚器官を働かせるが、その場合は味覚よりも視覚や嗅覚の情報のほうが優先されるということ。

5　人間は食べ物や飲み物の味を判断するときに「つじつま合わせ」をしているが、人工現実感が体験できるような装置を使うと「つじつま合わせ」ができなくなってしまうということ。

問7　波線部Ⓑ「そもそも、なぜわれわれの脳内では『つじつま合わせ』をしてしまう状況になるのだろうか」とあるが、人間の脳内で「つじつま合わせ」が行われるのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑬

1　人間は眼や耳や鼻などそれぞれ独立した感覚器官をとおして外界からさまざまな情報を得ているが、脳内ではそうした情報をもとにして、ほんのわずかな間違いも許さない完璧な結論を出そうとしてしまうから。

2　人間の感覚器官は、視覚は眼、聴覚は耳、触覚は皮膚のようにそれぞれ独立しているが、感覚器官の精度はそれほど高くないため、脳内では各感覚器官から得られた不完全な情報を無理にでも統合しなければならないから。

3　人間は視覚、聴覚、触覚などそれぞれ独立した感覚器官によって外界の情報を得ているが、各感覚器官からの情報が一定の量以上に増えすぎると、脳内ではそれらを正しく処理することができなくなってしまうから。

4　人間が生きていくなかで眼や耳や鼻などの感覚器官が外界から得ている情報はそれぞれ大きく食い違っているが、そうした多種多様な情報が入ってきても混乱しないようにしようとしているから。

5　人間の感覚器官はそれぞれの部位で独立したメカニズムになっているため、それぞれの感覚器官から得られた結論が食い違ってしまうことがあり、脳内ではそうした食い違いを統合する必要が出てくるから。

問8　波線部Ⓒ「ニュースを伝えるアナウンサーの声の音源は、視覚情報だけならば画面上にあると結論を出し、聴覚情報だけならばイヤホンであると結論を出す」とあるが、眼や耳などの感覚器官が出すこのような「結論」と「脳の判断」に関する説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑭

1　脳がいったん「つじつま合わせ」をして判断を下しても、各感覚器官が出した結論にまで戻って判断をやり直すのは当たり前のこととして行われている。

2　脳がいったん「つじつま合わせ」をして判断を下しても、それが間違っていた場合には、各感覚器官が出した結論にまで戻って判断をやり直している。

3　脳がいったん「つじつま合わせ」をして判断を下すと、たとえそれが間違っていたとしても、各感覚器官が出した結論にまで戻って判断をやり直すことはない。

4　脳がいったん「つじつま合わせ」をして判断を下しても、各感覚器官が出した結論の食い違いが大きかった場合には、判断をやり直すこともある。

5　脳がいったん「つじつま合わせ」をして判断を下すと、各感覚器官が出した結論に戻ることはないが、その判断を人間が意識的に変えてしまうことも多い。

問9　本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の1～5のうちから一つ選びなさい。 ⑮

しかしながら、目隠しをして、鼻をつまんで、ワインやジュースを飲むと、ワインが高級かどうかはもちろんのこと、どの果物のジュースかさえほとんど区別できなくなることに驚くだろう。

1【Ⅰ】　2【Ⅱ】　3【Ⅲ】　4【Ⅳ】　5【Ⅴ】

問10　本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。⑯

1　人間の脳は各感覚器官から得られる結論を統合する「つじつま合わせ」を頻繁に行っていて、人間は自分の脳内でそうしたことが行われていることに気づいているが、「つじつま合わせ」は日常生活を送るうえで支障になるようなものではないため、そのまま受け入れてしまうことが多い。

2　人間の脳が行う「つじつま合わせ」とは各感覚器官から得られる結論を統合するもので、結論の食い違いがかなり大きなものでもつじつまを合わせてしまうが、人間は自分の脳内でそうしたことが頻繁に行われているにもかかわらず、そのことにほとんど気づくことがない。

3　人間が、自分の脳が「つじつま合わせ」を行っているにもかかわらずそのことに気づかないのは、日常生活の中で「つじつま合わせ」がそれほど頻繁に行われるわけではなく、また、脳がつじつまを合わせている各感覚器官からの結論の食い違いもそれほど大きなものではないためである。

4　人間の脳は各感覚器官から得られる結論に食い違いがあったときに「つじつま合わせ」を行っているが、たとえ感覚器官からの結論に食い違いがあったとしても「つじつま合わせ」が必ず行われるわけではなく、そうした場合でも人間は特に混乱することなく日常生活を送ることができる。

5　人間の脳は頻繁に「つじつま合わせ」を行っているが、世の中でもよく言われているように、「つじつま合わせ」というものは人間の行動を混乱させる「悪い」ものであるため、われわれは日頃からそうした「つじつま合わせ」が行われていないかどうかを意識することが大切である。

Ⅱ　次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

総務省の「令和2年版 情報通信白書」によると、二〇一九年時点での個人におけるスマホの保有率は67・6％であり、NTTドコモが行った「2021年一般向けモバイル動向調査」では、日本国内のスマホ・ケータイ所有者のうち「スマートフォンを所有している」とした人は92・8％であったという。Ⓐ所有者が個人か否かを問わなければ、いわゆる「携帯電話」を保有している人の圧倒的多数が、いまやスマホの利用者なわけである。【　Ⅰ　】

スマホの利用者がかくも急増している背景には、その利便性がある。スマホにはたくさんの機能が搭載されており、電話機能はもはやその一部に過ぎない。スマホは世界と繋（つな）がるための必須のアイテムなのであり、それゆえに、スマホを［ⅰ］持ち歩き、スマホを触っている時間が一日の活動で最も長いということも珍しくない。【　Ⅱ　】

事実、「PR TIMES」社が二〇二一年に行った調査では、一日のスマホ利用時間の中央値は6時間34分であったという。これは、睡眠に匹敵する時間、あるいはそれ以上の時間を多くの人がスマホ利用に当てていることを意味している。この結果はアメリカでもほぼ同じで、大半の人が毎日約6時間をスマホ利用に割いており、今後もそれは伸びることが予想されている。アメリカの㋐れんポウ最高裁判所長官のジョン・ロバーツが言うように、「現代の携帯電話は、火星人が人間の解剖学上の重要な特徴だと結論づけるほど、いまや日常生活の一部として浸透しており、また定着している」のである。

これらのことはすべて、先述したようにスマホの利便性に起因している。移動には地図機能、調べものにはウェブ検索、コミュニケーションにはSNSなど、私たちの日常行動のあらゆることが、いまやスマホ無しにはままならない。読者もスマホ利用者であれば、きっとそう感じているはずだ。このようなスマホへのアウトソーシング（外部㋑イたく）は、スマホの高性能化によって、ますます強まっているように思う。

例えば、かつてであれば、検索するのも文字を入力するのも、私たち自身が関わる部分があった。［ⅱ］、いまやスマホは学

習することでユーザーごとに最適化し、私たちの関わりすら減らしてくれる。ウェブ検索やニュースアプリを考えてみてほしい。それらは、「誰が・いつ・どこから」スマホを利用しているかを分析し、ユーザーが求めている情報や、好みのニュースを自動で示すようになっている。【 Ⅲ 】

イギリスの数学者で哲学者でもあったホワイトヘッドなら、このようなスマホの高性能化は文明の進歩の証(あかし)だというに違いない。というのも、彼は自著で次のように主張しているからである。

われわれは、現にしていることについて考える習慣を養わなければならぬと、すべての習字帳や演説するお偉方たちはくりかえしているが、これはとんでもない誤りを犯した(a)陳腐な言い草である。(B)まさに逆のことこそ正しい。文明は重要な演算操作、しかもそれらの操作について考えることなしに行うことのできる演算操作の数を増すことによって進歩するのである。

ホワイトヘッドに賛同するか否かはともかく、スマホに限らず、文明の発展によって、私たちの関わり抜きでも作動する「賢い」デバイスは今後も増えていくだろう。目的地まで送り届けてくれる自動運転車もその一つだ。そのうち、好みの食材や衣料品が自動的にコウ(ウ)ばいされて届いたり、体調不良による欠勤の連絡を代理してくれたり、入力する前に言いたいことが勝手にイートされるようになるかもしれない。(x)。この趨勢(すうせい)が続いていくなら、代わりに勝手に働いて自動で入金してくるデバイスの、一刻も早い登場を期待したいところだ。【 Ⅳ 】

しかし、そうした、すべてが手離れする未来は残念ながら歓迎されないだろう。より確からしい未来はもっと折衷的なものになると思われる。つまり、私たち人間は、すべてをアウトソーシングできるデバイスを持ち得ても、自分たちの領分をあえて残す選択をするのではないだろうか。というのも、現時点でさえ、利便性や効率化と引き換えに私たちは自分の能力を失ったり、人間として本来なすべきことを見失ったりしているのではないか、という危惧が持たれているからだ。ホワイトヘッドが賞賛し

た進歩の形は、別の者には、人間の自由や自律性の危機として見なされているのだ。【 V 】

このような技術的な進歩への危惧は、しかし、技術の現段階への危惧というよりも、過去のすべての段階で生じた危惧の末裔(まつえい)だと考えられる。技術の進歩と人間性に対する危惧は、一つの事柄の両面、あるいはⓑ似ても似つかぬ双子だと言ってもいい。ここに言う「技術」は、機械的な意味でのそれだけでなく、最も広義でのそれを含めても構わない。というのも、古代ギリシアでは、「文字」ないし「書く」技術の進歩についてさえ、書かれた言葉に依存する傾向を生み出し、それによって人間の生来の能力を弱体化させるのではないか、と危惧されていたからだ。そうした危惧を端的に表現したのは、古代ギリシアの哲学者ソクラテスその人である。

Ⓒソクラテスは、弟子のプラトンが記した『パイドロス』の中で、次のように述べている。

人びとがこの文字というものを学ぶと、記憶力の訓練がなおざりにされるため、その人たちの魂の中には、忘れっぽい性質が植えつけられることだろうから。それはほかでもない、彼らは、書いたものを信頼して、ものを思い出すのに、自分以外のものに彫りつけられたしるしによって外から思い出すようになり、自分で自分の力によって内から思い出すことをしないようになるからである。じじつ、あなたが発明したのは、記憶の秘訣(ひけつ)ではなくて、想起の秘訣なのだ。また他方、あなたがこれを学ぶ人たちに与える知恵というのは、知恵の外見であって、真実の知恵ではない。

ソクラテスは「文字」という技術が、人間の思考力や記憶力、認知能力などを退化させるのではないかと危惧している。この技術は、人間性の知的な側面から「自律性」を引き抜いてしまうと言っているのだ。ソクラテスはまさしく、ホワイトヘッドが批判の対象としている「お偉方」、「現にしていることについて考える習慣を養わなければならぬ」と演説する知識人なのである。ホワイトヘッドは「逆のことこそ正しい」と断言しているが、ソクラテスの危惧は根強く現代にも引き継がれており、経験的に

はむしろ、ソクラテスの方に分があるように感じる。

例えば、ＳＮＳの発達によって、私たちは毎日膨大な量の文字を読んだり、打ち込んだりしている。けれども、私たちはそこで触れる多くの「漢字」を、すでにスマホの自動変換機能なしには書けなくなっているのではないだろうか。読者の中にも、㋓ケイやく書や取引に際して手書きが必要になったときに、慌ててスマホで漢字を確認した人はいるはずだ。かく言う私も、本書を手書きで再現する自信はない。［　　ⓨ　　］。ダメ押しに言えば、携帯電話の番号登録機能を使うようになったことで、かつては覚えていた友人宅の電話番号や、行きつけの店や㋔シせつのそれを忘れてしまった人も多いのではないだろうか。

（堀内進之介『データ管理は私たちを幸福にするか？　自己追跡（セルフトラッキング）の倫理学』より）

（注）ツイート……ＳＮＳのひとつ「Twitter」（現「X」）上での書き込み。

問1　太線部㋐～㋔のカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

㋐ れんポウ

⑰

1 放　2 法　3 方　4 包　5 邦

㋑ イたく

⑱

1 委　2 位　3 移　4 居　5 偉

㋒ コウばい

⑲

1 講　2 攻　3 溝　4 効　5 購

㋓ ケイやく

⑳

1 継　2 契　3 系　4 経　5 啓

㋔ シせつ

㉑

1 市　2 資　3 指　4 施　5 祉

問2　二重傍線部ⓐ・ⓑはそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

ⓐ　陳腐な　㉒

1　ひど過ぎる
2　卑怯（ひきょう）な
3　ありきたりの
4　ずるがしこい
5　わけのわからない

ⓑ　似ても似つかぬ　㉓

1　全く似ていない
2　あまり似ていない
3　よく見ると似ていない
4　似ているかどうかわからない
5　似せようとしても似せられない

問3　空欄ⓘ・ⓘⓘに入れるのに最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

空欄ⓘ　㉔

1　やむを得ず
2　図らずも
3　肌身離さず
4　無理やり
5　往々にして

空欄ⓘⓘ　㉕

1　しかし
2　また
3　だから
4　すなわち
5　しかも

問4　波線部Ⓐ「所有者が個人か否かを問わなければ、いわゆる『携帯電話』を保有している人の圧倒的多数が、いまやスマホの利用者なわけである」とあるが、スマホの利用者の実態についての説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。㉖

1　現代人にとってスマホは世界と繋がるための必須のアイテムとなっているが、スマホの利用に関する白書や調査によると、その利用の仕方や利用時間には日本とアメリカで顕著な違いがある。

2　国民の大半がスマホを利用しているような国は世界の中で日本やアメリカなど一部の地域だけであるが、スマホの高性能化とともにその利用者は今後も急増していくと見られている。

3　現在のスマホは高性能化したくさんの機能が搭載されているが、スマホを利用する時間が非常に長いにもかかわらず、ほとんどの人は電話機能など一部の機能しか活用していない。

4　スマホは現代人の日常生活の一部として浸透・定着していて、その利用時間は睡眠時間に匹敵するかあるいはそれ以上のものとなっており、今後もさらに伸びていくものと予想されている。

5　一日の活動でスマホを触っている時間が最も長いなどといったように現代人はスマホに依存した生活を送っているが、スマホの高性能化がさらに進むとそうした時間は減少すると考えられている。

問5　波線部Ⓑ「まさに逆のことこそ正しい」とあるが、これは本文の文脈に即していうとどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。㉗

1　スマホのような高性能の技術は人間の思考力を失わせるなどといった考え方は間違いであって、技術が進歩すればするほど人間の思考力は養われていくということ。

2　文明の進歩の証であるスマホのような高性能の技術を使いこなすためには、技術を過信するのではなく、自分でよく考える習慣を身につけなければならないということ。

3　スマホの高性能化は文明の進歩の証であるなどといった考え方は間違いであって、文明が進歩すればスマホよりももっと高性能な機器が生み出されてくるということ。

4　文明を進歩させるためには、「お偉方」たちがくりかえしているように今現在のことばかり考えるのではなく、未来について考えなければならないということ。

5　人間が思考力を養うことにこだわるのは間違いであって、人間が考えなくてもすむスマホのような技術が増えていくことによって文明は進歩していくということ。

問6　空欄ⓧに入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。㉘

1　そうして、私たちが自ら行わなければならない作業はますます増え、デバイスへのアウトソーシングの比率もますます高まっていくのだろう

2　そうして、私たちが自ら行わなければならない作業はますます増え、デバイスへのアウトソーシングの比率はだんだん低くなっていくのだろう

3　こうして、私たちが自ら行わなければならない作業はますます減り、デバイスへのアウトソーシングの比率はいよいよ高まっていくのだろう

4　こうして、私たちが自ら行わなければならない作業はますます減り、デバイスへのアウトソーシングの比率もだんだん低くなっていくのだろう

5　それでも、私たちが自ら行わなければならない作業はそれほど変わらず、デバイスへのアウトソーシングの比率も変わることはないだろう

問7　波線部Ⓒ「ソクラテスは、弟子のプラトンが記した『パイドロス』の中で、次のように述べている」とあるが、ソクラテスの考えとそれに対する筆者の考え方についての説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

㉙

1　ソクラテスは、人間が「文字」という新しい技術を学ぶとそれまで記憶していたことを忘れてしまうことを危惧したが、筆者は文字をとりまく現在の社会状況から、そうした考え方には否定的である。

2　ソクラテスは、「文字」という技術は知恵のように見えて真実の知恵ではなく、人間を進歩させるよりも退化させるものだとして批判し、筆者もホワイトヘッドとは反対にそうした考え方を支持している。

3　ソクラテスは、もともと忘れっぽい性格である人間が「文字」という技術を学んでもすぐにそれを忘れてしまうために無意味だとしたが、筆者はホワイトヘッドと同様、そうした考え方を批判している。

4　ソクラテスは、人間が「文字」という高度な技術を学ぼうとすると他のことを学ぶ余裕がなくなり人間が弱体化してしまうと考えたが、筆者は当時の人間と現代人を比較したうえでそうした考え方に疑問を感じている。

5　ソクラテスは、「文字」という技術が進歩し人間がそれを学ぶと人間が持っている思考力や記憶力や認知能力などを退化させてしまうのではないかと考え、筆者も自分自身の経験からそうした考え方を肯定している。

問8　空欄ⓨに入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。㉚

1　ただ、スマホを使ったからといって本の内容を理解できないわけではない
2　「読めるが書けない」という状態はいまや日常的な光景だといえるだろう
3　だが、「漢字なんて読めればいい」と思っているのは私だけではないはずだ
4　便利な機械があるのにそれを使わずに手書きにこだわるのはばかばかしい
5　技術の発達はとても書くことができない難解な漢字も読めるようにしたのだ

問9　本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の1～5のうちから一つ選びなさい。㉛

つまり、スマホはすでに単なる入力／出力装置ではなく、私たちの思考や行動を分析し、利用者に最適化された情報を返すことができる、そのような利器なのだ。

1【Ⅰ】
2【Ⅱ】
3【Ⅲ】
4【Ⅳ】
5【Ⅴ】

問10　本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。 32

1　現在のスマホは高性能ではあるものの人間が関わらなくても作動するほど「賢い」ものではないが、今後さらに文明が発展しすべてをアウトソーシングすることができるデバイスができると、人間はそうしたデバイスを積極的に持ち、その結果、自由や自律性をほとんど失ってしまうと考えられる。

2　現在私たちが広く利用しているスマホは高性能で人間は日常生活の中でさまざまなことをスマホにアウトソーシングしているが、そうした傾向がさらに強まり、すべてをアウトソーシングしたとしても、一部の人たちが危惧するように人間から自由や自律性が失われてしまうようなことはないと思われる。

3　スマホが高性能化するにしたがって私たち人間はスマホへのアウトソーシングを強めてきたが、今後さらに文明が発展しすべてをアウトソーシングすることができるようなデバイスを持つことができるようになったとしても、人間はそうしたデバイスを完全に受け入れるようにはならないと考えられる。

4　現在、スマホの利用者が急増しているのは、それがさまざまなことをアウトソーシングできる利便性の高いものだからであるが、今後スマホよりもさらに「賢い」デバイスができたとしても、利用者が増えるだけで、ホワイトヘッドやソクラテスが危惧したような人類の危機的な状況になることはないと思われる。

5　現代人はスマホというデバイスを利用することによって、その利便性や効率化と引き換えに自分の能力を失ったり、人間として本来なすべきことを見失ったりしてしまっているが、文明が発展しスマホよりも「賢い」デバイスを利用するようになれば、そうした問題を解決することができると考えられる。

〔問題終了〕

2024年度　一般入試＜前期＞解答　1月29日実施分

国語		
解答番号	解答	配点
①	4	2
②	5	2
③	5	2
④	1	2
⑤	3	2
⑥	4	2
⑦	2	2
⑧	3	2
⑨	4	2
⑩	4	3
⑪	3	3
⑫	2	5
⑬	5	5
⑭	3	5
⑮	1	5
⑯	2	6
⑰	5	2
⑱	1	2
⑲	5	2
⑳	2	2
㉑	4	2
㉒	3	2
㉓	1	2
㉔	3	2
㉕	1	2
㉖	4	5
㉗	5	5
㉘	3	3
㉙	5	5
㉚	2	3
㉛	3	5
㉜	3	6